どうして埴輪はゆるいのか？

～埴輪と兵馬俑を比較してみよう～

中央中等教育学校

1年3組 14番 清水雅也

（返却希望）

1．研究動機

夏休みに入り、映画を観た。その映画は、中国史上初めて天下統一を果たした秦の始皇帝とそれを支えた武将李信が主人公の物語である。ぼくは、この映画で秦の始皇帝や兵馬俑、中国古代史に興味を持つようになった。

さて、話は変わって、夏休みの社会の課題についてだ。どれにしようかと一覧を見ていて『東国文化自由研究』というものが目に留まった。東国について検索してみると、なんとぼくが住む前橋市元総社町は、今から1500年ほど前、東日本の中でも中心的な場所だったということがわかった。このことから、地元をよく知りたいと思い、東国文化について調べてみることにした。

まずは手始めにかみつけの里博物館に行ってみた。博物館の近くにある八幡塚古墳は圧巻だった。まるで古代にタイムスリップしたかのように、古墳の周りを埴輪が囲っていた。列をなしている埴輪もあった。そこで、ぼくはふと、この光景をどこかで見たような気がした。それは秦の始皇帝陵の兵馬俑だった。

埴輪も兵馬俑も、古代の大きなお墓の周りにあった。なぜだろう。しかし**埴輪は、人型や動物型、円筒型まで色々あるが、どれも写実的ではない。**例えば、埼玉県の野原古墳から出土した踊る人々の埴輪は、ぼくのお気に入りの埴輪の一つだが、一見すると宇宙人のようだ。一方で、日本の古墳時代の800年もの昔に中国の秦の始皇帝陵から発掘された**兵馬俑は、今にも動きだしそうなほどにリアルで、服のしわまで再現されている。さらに、同じものはないという。**このような疑問から、ぼくは、埴輪と兵馬俑の違いについて調べてみることにした。

踊る人々（野原古墳出土）「東京国立博物館蔵」

兵馬俑

八幡塚古墳　埴輪が隊列を組む様子

兵馬俑坑で兵馬俑が隊列を組む様子

2. 予想

埴輪と兵馬俑がなぜこんなにも違うのか予想をしてみた。

予想その1：使っている材料や作り方が違ったため、埴輪はきれいに作ることがむずかしかった。

予想その2：技術的に中国の人がとても優れていた。

予想その3：埴輪と兵馬俑の役目は違った。

予想その4：中国から日本へ伝わってくるうちに、段々と雑になっていった。

3. 研究方法

兵馬俑の研究…秦の始皇帝陵は中国にあるため、実際に行くことは困難である。そこで、発掘の結果や研究がまとめられている書籍、中国の古代史などの文献調査やインターネットでの調査を中心に行うことにした。

埴輪の研究…群馬県には非常に多くの古墳があり、そこからたくさんの埴輪が出土している。埴輪の研究に関しては、現地調査、博物館調査、文献調査などを中心に行うことにした。しかし、たくさんの古墳や埴輪をやみくもに調査しても焦点が定まらないと考えた。そこで、群馬県の中でも、たくさんの出土品が発掘された綿貫観音山古墳を研究材料とすることにした。

4. 秦の始皇帝陵について

秦（紀元前 905 年 － 紀元前 206 年）は、中国の王朝である。周代・春秋時代・戦国時代にわたって存在し、**紀元前 221 年に史上初めて中国全土を統一**、紀元前 206 年に滅亡した。秦王政は中華統一後、自ら皇帝を名乗ったが、これを中国で初めて称したことから、始皇帝（秦始皇）と呼ばれた。世界遺産に登録されている始皇帝陵は、始皇帝が 13 歳の時から建築が開始されたもので、墳丘長は 350mもある。20 世紀後半になって発掘され、今まで不明瞭だった秦の時代の文化が伺えるようになっている。

秦の始皇帝陵は、兵馬俑約 8000 体、車馬約670台、戦車約 130台、青銅兵器数万点からなされている。俑とは、死者と一緒に埋葬された人形のことで、始皇帝を永遠に守るために副葬され、そのすべてが東を向いていて、侵略を警戒していたためとされている。右の図は紀元前260年頃の中国の様子だが、秦の東側にはたくさんの強国があったことが分かる。

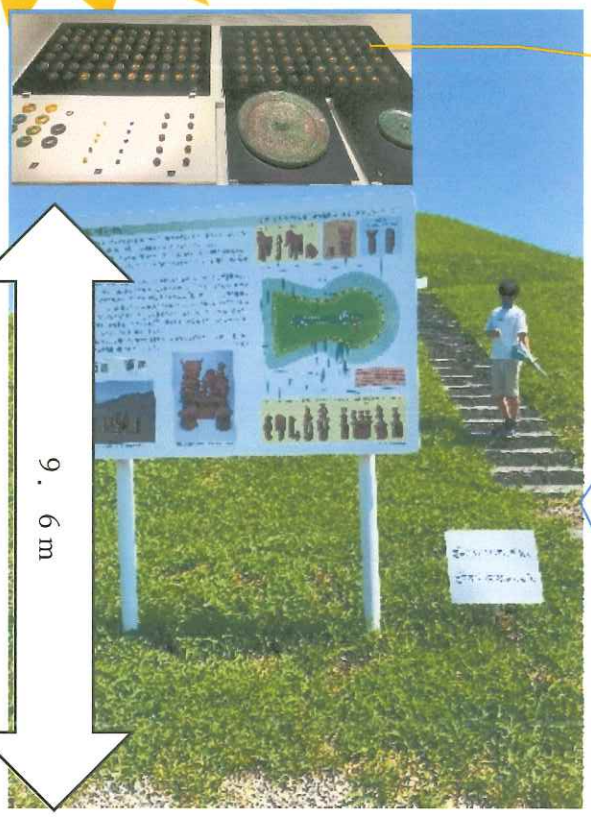
始皇帝陵はまだ発掘調査が行われていない。司馬遷の書いた『史記』によると、中には水銀の川や、宝石を星に見立てた天井、自動的に発射できる弓矢が仕掛けられているそうだ。

5. 綿貫観音山古墳について

綿貫観音山古墳は、高崎市綿貫町にある前方後円墳で、**墳丘長は97m高さ約 9.6m**である。築造時期は、**6 世紀後半**と考えられている。前方後円墳としては、それほど大きくはないが、この古墳の出土品は**令和2年に国宝に指定されている**。この古墳は、石室が崩れていて入れなかったため、未盗掘であった。そのため、埋葬された時の装飾品がたくさん出土した。その中には**中国や朝鮮半島などの大陸との交流があったことがわかる調度品もあった。**
ぼくは今回、比較材料として、未盗掘で出土品が非常に多かったこの綿貫観音山古墳を選んだ。

すべて国宝！綿貫観音山古墳

出土した埴輪たち
三人童女が有名



被葬者の遺体にかけられていた布に装飾されていた金の飾り

王のベルト
鈴が付いているものは日本でこれだけ

大陸とのつながりを示す出土品

←←←←←←←←←←←←←←銅水瓶（左）：中国で製作された仏具が朝鮮半島を経由して日本にもたらされたと考えられている。

←獣帯鏡（右）：ほぼ同じものが百済の武寧王陵からも見つかっている。中国の後漢時代 25～200 年に製作された鏡がもととなっていると考えられている。

6. 比較　　特徴や出土品を比較してみた。

共通しているところ　異なっているところ　一部共通しているところ

	綿貫観音山古墳	秦の始皇帝陵
時代 国の名前	6世紀後半（約1400年前） 上毛野	紀元前246～208頃（約2200年前） 秦
墳丘長	97m	350m
形	前方後円墳 ①	ピラミッド型（頂上部は削れてなくなった）
作るのにかかった年月	約10年 （大仙古墳は680万人で15年8カ月）	70万人 40年
埋葬されている人	上毛野の有力な首長	秦の始皇帝
なぜ大きいか	権力を示すため ②	権力を示すため
その他	古墳の大きさは中程度だが、石室は県内最大級	中に水銀の反応がある
出土品	銅鏡　銅水瓶　金銅馬具 装身具 大刀 甲冑 須恵器 様々な埴輪	未だ発掘調査がされていない （保全のため）
	埴輪	兵馬俑
材料	土（素焼き） ③ （木製のものも他では出土している）	土（素焼き）（色もついていた） 青銅 木
大きさ	高いもので150cm	175cm～190cm
作り方	一体型で作った（輪積み） ④	パーツごとに作り、焼いた後組み立てた（輪積み）
種類	家形 盾形 にわとり形 円筒 朝顔形 人物埴輪（高貴な男子・高貴な女子・三人童女・靫負男子・振り分け髪の男子・甲冑を身にまとう男子・馬ひき） 馬13頭以上	騎兵 将軍 戦車 歩兵 射手 馬 音楽家 曲芸師 妻 水鳥 鶴
一つの墓に入っている数	推定600個 （大仙古墳は約3万個）	戦車 約130台　馬 約670台 武士俑 約8千体
どこに配置されていたか	古墳の周り	墓の中（始皇帝陵から東に1.5km東）
どのように配置されていたか	古墳の周りを囲むように一列に （古墳によっては、隊列を組んでいる）	東を向き隊列を組んでいた
起源	生き埋めがかわいそうだったから ⑤	生き埋めがかわいそうだったから
目的	王の眠る古墳という聖域を守るため。 自慢の馬や武具を並べて権威を示したり、生前行った儀式の様子を表したりするため。 ⑥	始皇帝を敵から永遠に守るため。 権威を示すため。 死後の世界も、生前と同じようにするため。

7. 考察　（番号①～⑥は、4.比較 の表を参照）

① から、日本の古墳と、秦の始皇帝陵の形は異なっていたことがわかる。このことから、**古墳は日本列島独自の墓と考えられる。**

② では、**墓を大きくした理由**として、被葬者の権力を死後も誇示するという点で共通している。中国大陸、朝鮮半島、日本の当時の墓はどれも大きく作られていたことから、この文化は**中国の影響を受けていたと考えられる。**

③ では、時々木製の物もあるが、ほとんどが**同じ材料(土)が使われていた**ということがわかった。しかし④では作り方が違うことがわかる。**埴輪の作り方では、兵馬俑のように綺麗に作ることはできないのだろうか。実際に試してみた→次の 8.埴輪作りにチャレンジ へ**

⑤ では、全く同じ理由ということがわかった。どちらの場合も、**それまでは王が死ぬと、配偶者や家来など、生前周りにいた人たちが一緒に生き埋めにされていた**ということだ。しかし、それでは可哀想だということで、埴輪や兵馬俑が作られるようになった。命を落とすよりも、身代わりになってくれる人形がいた方がよいので、当時の人は大変な作業でも頑張って作ることができたのかもしれない。

⑥ では、**'お墓を守る'という点では共通しているようだが、日本の埴輪には儀式的、宗教的な意味合いがあった**ことが分かる。兵馬俑は敵を寄せ付けないように威嚇できるくらいの迫力がある必要があったが、埴輪にはそこまで期待していなかったのかもしれない。（中には怖い顔の埴輪も見つかっている）

こわい顔の盾持人はにわ
保渡田八幡塚古墳　出土
（かみつけの里博物館より）

8. 埴輪作りにチャレンジ

埴輪は、兵馬俑と作り方が違うことがわかった。では、埴輪の作り方で兵馬俑が作れるか、実際に試してみた。今回『群馬県埋蔵文化調査センター発掘情報館』へ行き、埴輪づくりを体験させてもらった。

① 粘土で土台を作り、紐状の粘土を重ねる

② 外側を指でなすりつける

③内側を指でなすりつける

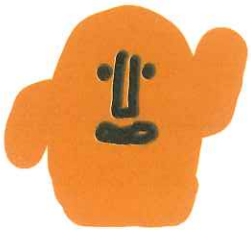
⑦ 足の部分は、塊に棒で穴をあけた

④ 紐で模様をつけた。

⑥ 手は、胴体に穴を空けて差し込む

⑤ 顔を作って完成！（顔ははめ込み式）

9. 埴輪作りをしてわかったこと



① 乾燥がたいへん

② 粘土の重さで崩れる（パーツごとが楽）

③ 少しずつ時間をかけて乾かしながらやるのが大切

今回使用した粘土（セラミックス）や道具は、古墳時代の人が使っていた物とは違う。また、大きさも小さいため扱いやすいはずだが、**非常に苦労した**。作業は手早く行わないと、**粘土が乾いて硬くなってしまうので、スピードが大事**だということがわかった。本物の兵馬俑のように、様々なポーズを取らせるためには、**粘土が柔らかく、重さで崩れてしまう**ため、今回は手を組んでいるポーズにして、胴体と接触させることでバランスを取った。埴輪の手が、胴体に対して細く短いのはこのためなのかもしれない。本物の埴輪は**少しずつ乾かし、強度を高めながら粘土を積み重ねていく**そうだ。兵馬俑の場合は、さらにパーツごとに焼いた後、組み立てることで180cmもの高さを可能にしているということがわかった。

10. 結果・感想

予想その1：使っている材料や作り方が違ったため、埴輪はきれいに作ることがむずかしかった。

▲

材料は土（粘土）で同じ。

兵馬俑はパーツごとに組み立てて作ったが、埴輪は基本的に一体型

予想その2：技術的に中国の人がとても優れていた。

×

中国や朝鮮半島から技術者（渡来人）がたくさん来て、技術が伝わっているので、劣っていたとは考えにくい。実際、観音山古墳から出土している銅水瓶などは、非常によくできている。

予想その3：埴輪と兵馬俑の役目は違った。

○

埴輪には、儀式的な役割があったと考えられている。

兵馬俑は敵から守るという役割。

予想その4：中国から日本へ伝わってくるうちに、段々と雑になっていった。

×

兵馬俑の技術は日本へは渡ってきていない。

しかし、観音山古墳から出土した獣帯鏡や銅水瓶を見ると、大陸から伝わってきた技術はほとんど変わらない品質で受け継がれていることが分かる。

今回の研究で日本や中国の古代史について見識を深めることができ、地元群馬のすばらしさに気付けたことが嬉しかった。埴輪は、作り方や目的が違うことからあのような姿をしていることがわかった。今後も様々な出土品を調べ、それがなぜそんな形、色をしているのかを考察していきたい。

最後に、研究にあたりご協力してくださった群馬県立歴史博物館の学芸員のみなさん、発掘調査館の小島敦子さんをはじめとするスタッフのみなさん、僕の研究に付き合ってくださりありがとうございました。皆さんが、少々無理な質問をぶつけても、ためらわず答えて下さったこと、とてもうれしかったです。おかげで濃い内容に仕上げることができました。

参考文献など

・東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう～ 群馬県〈2021 年度版〉
・群馬県公式はにわガイドブック HANI 本
・群馬の遺跡 ④ 古墳時代Ⅰ【古墳】（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 編
・史跡観音山古墳大人向け
・近つ飛鳥博物館 chikatsu-asuka.jp
・https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%A6
・綿貫観音山古墳の世界「特別講演 第3回 埴輪の特徴と意義」|文化|歴史博物館|群馬県
https://www.youtube.com/watch?v=qjYROiCMJAw
・埴輪の起源（藤井寺市）
https://www.city.fujiidera.lg.jp/rekishikanko/raiburari/koramukofunnomatikara/1387680073670.html
・Wikipedia 秦の始皇帝陵及び兵馬俑坑
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%A6%E5%A7%8B%E7%9A%87%E5%B8%9D%E9%99%B5%E5%8F%8A%E3%81%B3%E5%85%B5%E9%A6%AC%E4%BF%91%E5%9D%91
・百舌鳥・古市古墳群
https://www.mozu-furuichi.jp/
・図説 地図をあらすじでわかる!「史記」
・ナショナルジオグラフィック日本版 2012 年6月号